

1 自転車を取りまく動向等の整理

自転車を取りまく社会環境の変化・課題について、国の自転車活用推進計画（H30.6）の目標を視点に、「都市環境」、「健康」、「観光・ツーリズム」、「安全・安心」の観点から整理した。

(1) 【都市環境】の視点(目標 1: 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成)

- 1) 集約型都市構造(コンパクトシティ)の推進
- 2) 自動車依存低減への要請
- 3) 公共交通補完への要請

(2) 【健康】の視点(目標 2: サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現)

- 1) 健康寿命の延伸への要請
- 2) サイクルスポーツの裾野拡大

(3) 【観光・ツーリズム】の視点(目標 3: サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現)

- 1) 観光立国による地域活性化の推進

(4) 【安全・安心】の視点(目標 4: 自転車事故のない安全で安心な社会の実現)

- 1) 交通事故のさらなる抑制への要請
- 2) 災害の頻発

1.2 【都市環境】の視点

1.2.1 集約型都市構造の推進

- 国では、人口減少下においても都市の持続可能性を確保するために、集約型都市構造（コンパクトシティ）を推進している。
- 集約型都市構造を形成するにあたり、自転車は主に拠点エリアにおける移動手段の役割を担うことが示されている。

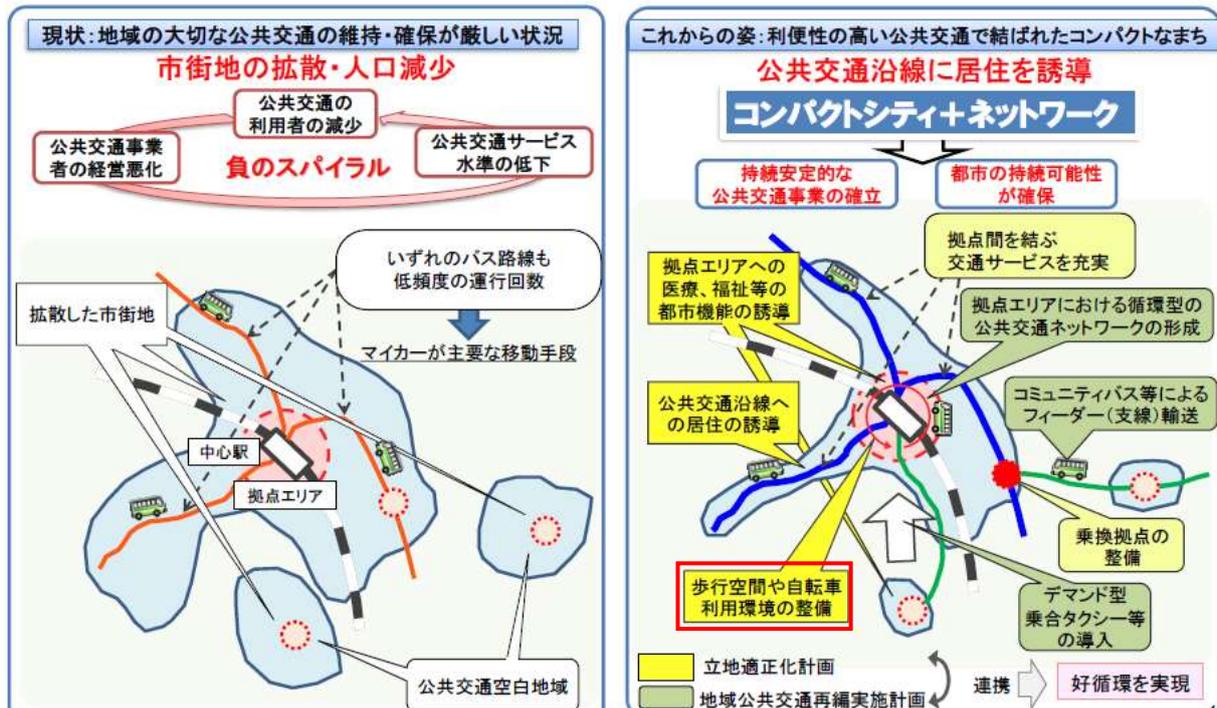


図 1-1 集約型都市構造の推進

出典：国土交通省資料

1.2.2 自動車依存低減への要請

(1) 環境負荷の低減

○温室効果ガス削減の国際目標として、我が国は2030年度に2013年度比26%減、2050年に80%減と今後大幅な削減が求められている。

日本の約束草案のポイント

(平成27年7月17日気候変動枠組条約事務局へ提出)

- ◆国内の排出削減・吸収量の確保により、**2030年度に2013年度比▲26.0% (2005年度比▲25.4%)**の水準(約10億4,200万t-CO₂)にする。
- ◆エネルギーミックスと整合的なものとなるよう、技術的制約、コスト面の課題などを十分に考慮した裏付けのある**対策・施策や技術の積み上げによる実現可能な削減目標**。
- ◆IPCC第5次評価報告書で示された、**2℃目標達成のための2050年までの長期的な温室効果ガス排出削減に向けた排出経路や、我が国が掲げる「2050年世界半減、先進国全体80%減」との目標に整合的なもの**。

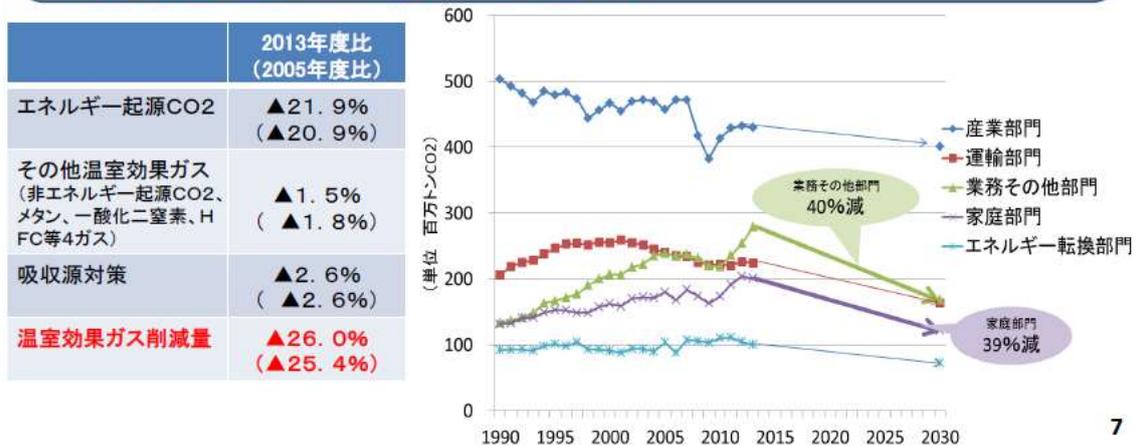


図 1-2 温室効果ガスの削減目標

出典：環境省「2050年を見据えた温室効果ガスの大幅削減に向けて」(平成27年10月)

(2) 高齢ドライバーへの対応

○高齢化の進展に伴い、高齢ドライバーによる交通事故の割合が増加傾向にある。



図 1-3 事故全体に占める高齢運転者の事故割合

出典：警察庁資料

1.2.3 公共交通補完への要請

○バス等の公共交通事業者は、都市部においてもドライバーの確保や、収支採算性の向上が課題となっており、効率性の向上が求められている。

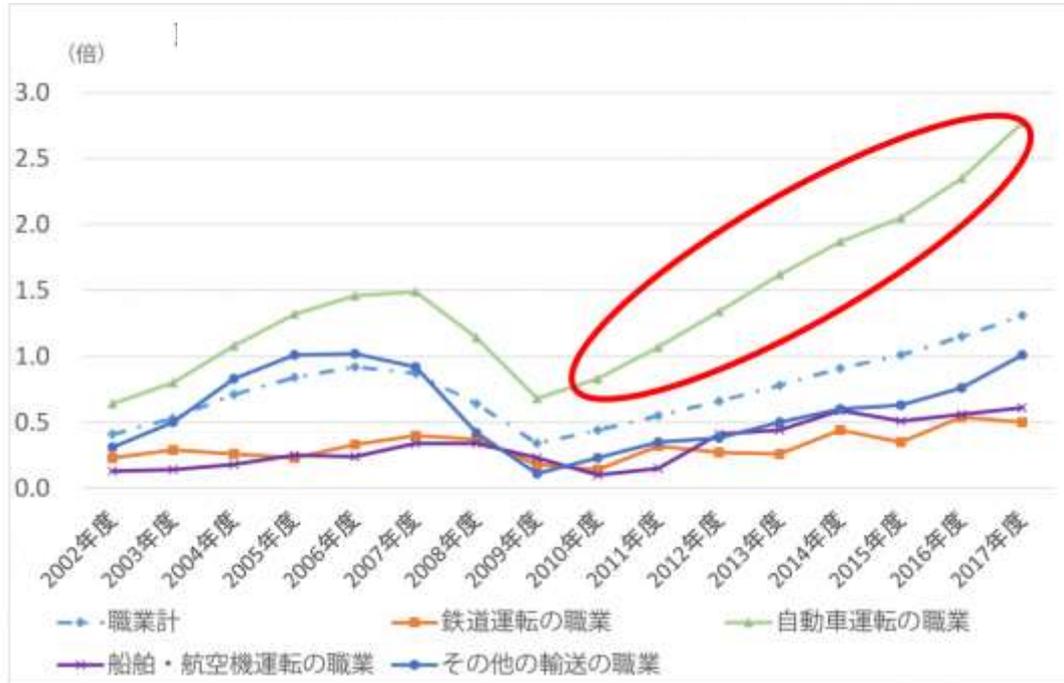


図 1-4 職業別の有効求人倍率（パートタイムを除く常用）の推移

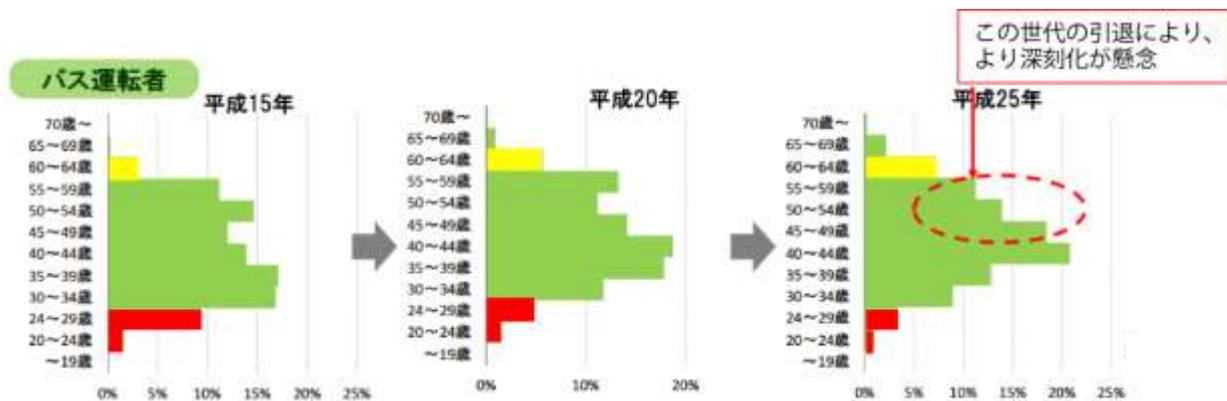


図 1-5 バス運転者の年代別比率の推移

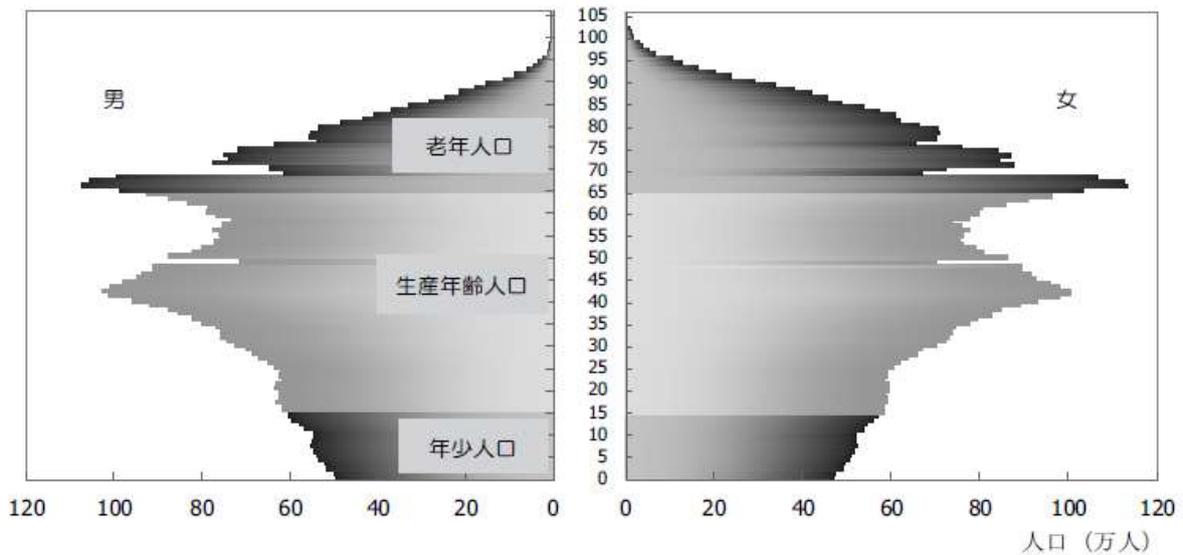
出典：第1回都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
 (国土交通省都市局 H30.10.22)資料 3・P9

1.3 【健康】の視点

1.3.1 健康寿命延伸への要請

○今後高齢化の進展により年齢構成が変化し、社会保障費削減や地域の活力維持等の観点から健康寿命の延伸が求められている。

(1) 平成27(2015)年



(2) 平成52(2040)年

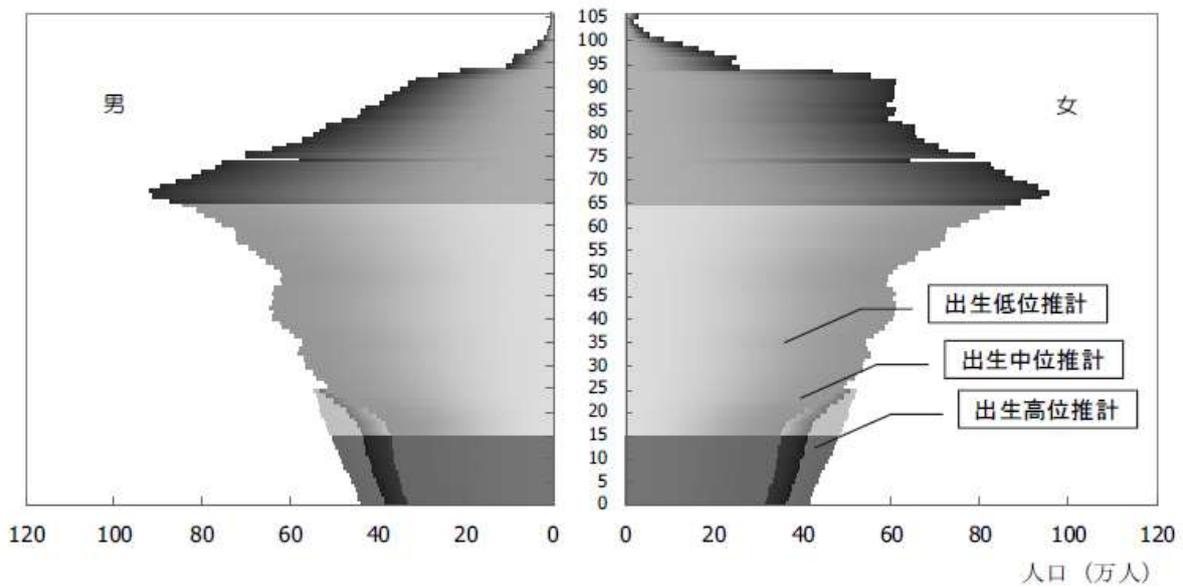


図 1-6 人口ピラミッドの変化

出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ

1.3.2 サイクルスポーツの裾野拡大

○自転車の利用目的や嗜好が多様化することにより、スポーツ車が普及している。

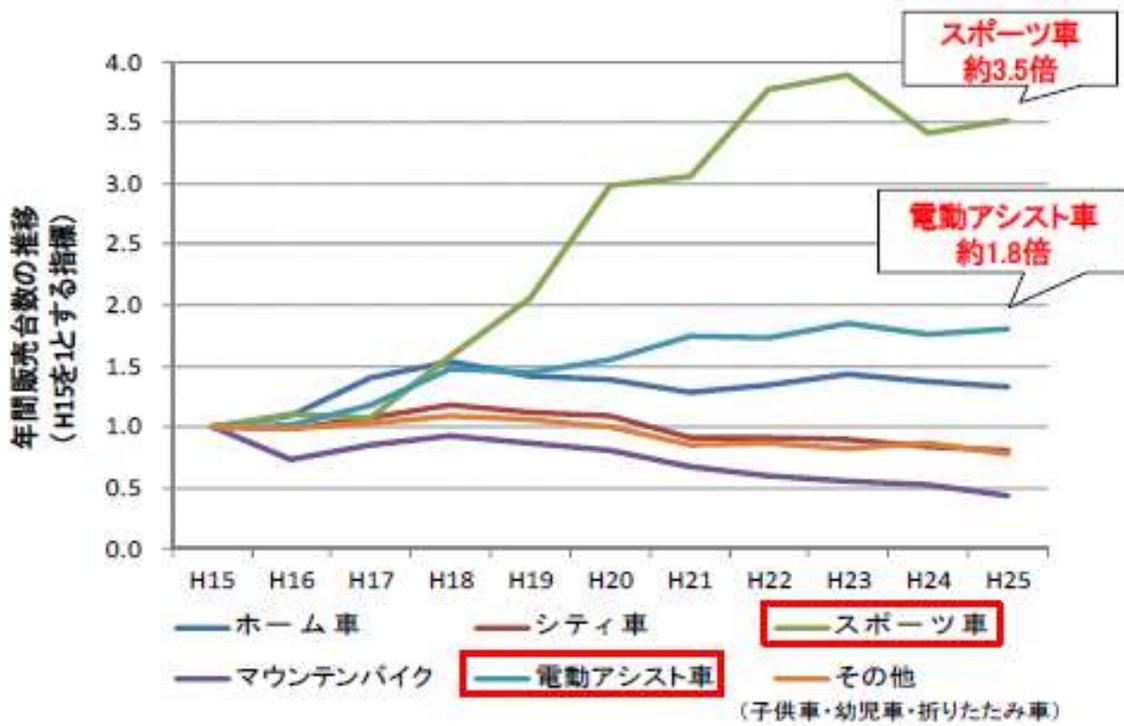


図 1-7 車種別販売台数の推移

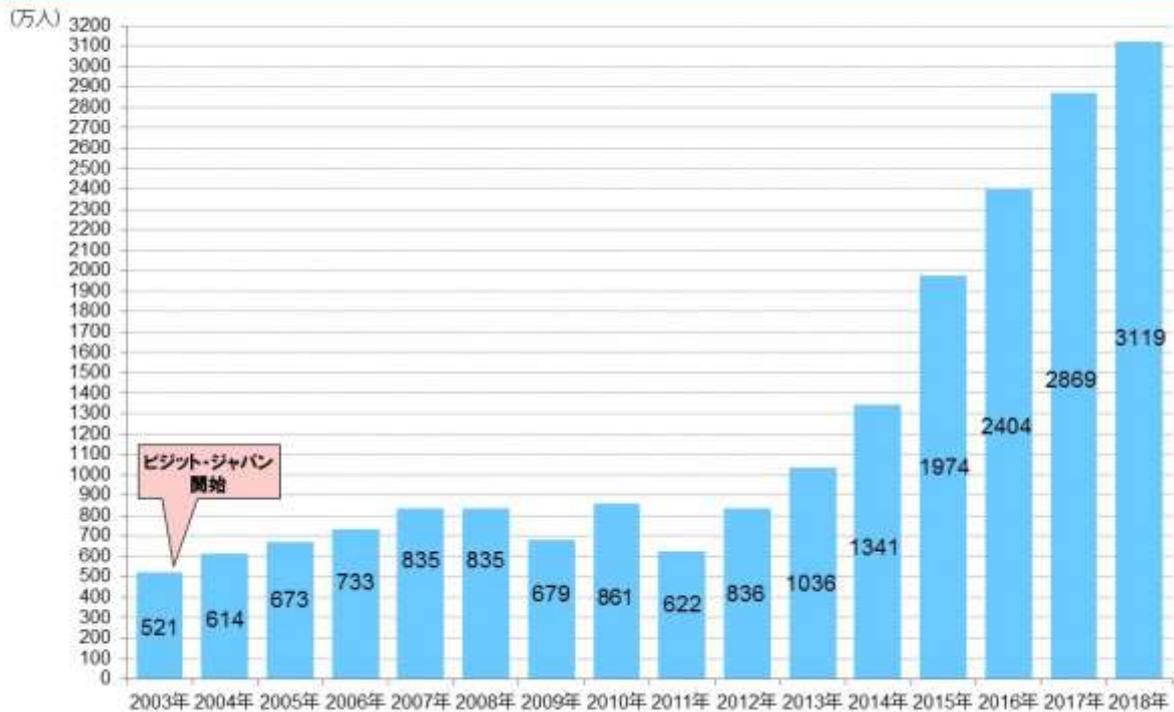
出典: 国土交通省資料

1.4 【観光・ツーリズム】の視点

1.4.1 観光立国による地域活性化の推進

○近年訪日外国人観光客が急増しており、東京オリンピックや大阪万博等を契機にしたさらなる拡大や地域活性化への貢献が目標とされている。

訪日外国人旅行者数推移



注) 2017年以前の値は確定値、2018年の値は暫定値、%は対前年同月比

図 1-8 訪日外国人旅行者数の推移

出典:国土交通省:観光庁HP

訪日外国人旅行者数

2020年:4,000万人

2030年:6,000万人

○観光先進国という新たなステージへ進むためには、2020年に2000万人という目標に満足することなく、さらなる高みを目指す必要がある。
このため、訪日外国人旅行者数については、2020年には約2倍となる4000万人、2030年には約3倍となる6000万人を目指す。

図 1-9 訪日外国人旅行者数の目標値

出典:観光庁HP

1.5 【安全・安心】の視点

1.5.1 自転車事故のさらなる抑制

- 全交通事故死者数の減少割合に対して、自転車乗用中の死者数の減少割合の方が小さくなっている。
- また、自転車乗車中による死亡事故の割合は他国よりも高くなっており、自転車事故のさらなる抑制が求められている。

■ 交通事故死者数は近年減少傾向である一方、
自転車乗車中死者数の占める割合は増加

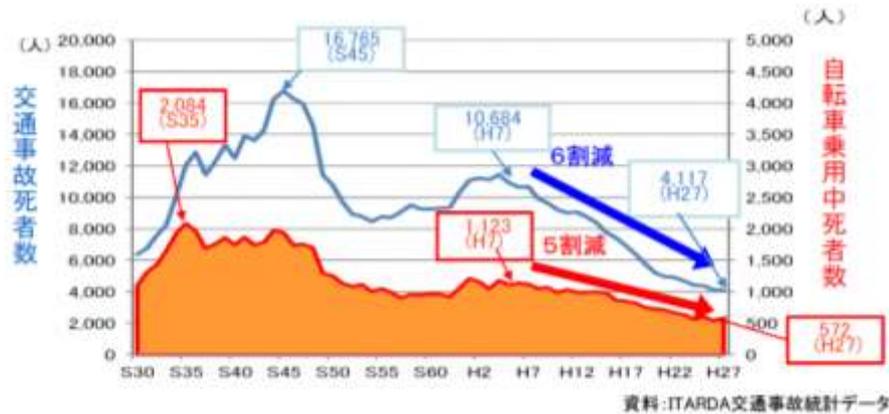


図 1-10 全交通事故件数及び自転車関連事故件数の推移

出典: 国土交通省資料

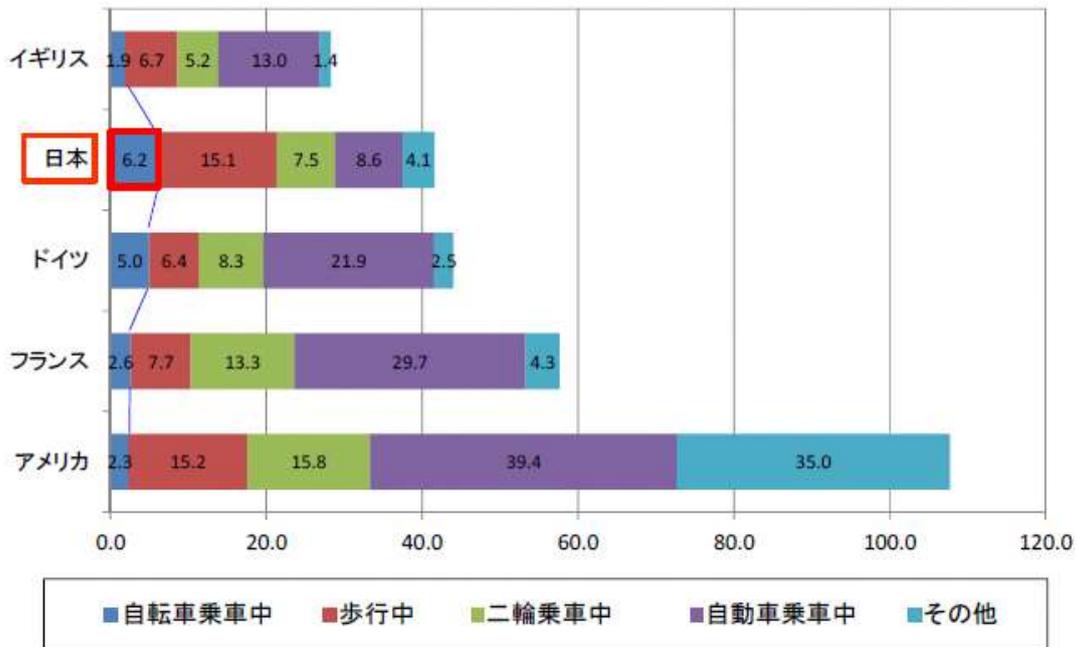


図 1-11 人口10万人あたり状態別死者数の国別比較 (平成24年)

出典: 国土交通省資料

